

第5学年 国語科学習指導路案

教科等	国語科	単元名	「子ども未来科」で何をする	本時	全7時間扱いの6時間目
学級	5年1組	授業者		教室等	3階 5年1組教室

<本時の指導>

<本時のねらい> 説得力が高まるスピーチにするための話し方のポイントを見付け、自分のスピーチに生かすことができる。	
<p>主な学習活動【4つの視点】</p> <p>主な発問:T 予想される児童の反応:C</p> <p>導入 1.本時のめあてを確認する。【発見】 T:前時にスピーチメモの内容をふくらませて、より分かりやすくしましたね。今日は、より分かりやすく伝わる話し方を学んで、自分のスピーチに活かしていきましょう。</p> <p>説得力のある話し方のポイントを見付け、説得力がより高まるスピーチにしよう。</p>	<p>○研究主題にせまる6つの手立て</p> <p>□…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p> <p>□前時に聞き手に伝わりやすくするためにスピーチの構成を工夫したことを想起させる。本時では、スピーチ内容がより伝わりやすくするための話し方の工夫を見付け、活かしていくということに着目させる。</p>
<p>2.モデル動画から、話し方のポイントを見付ける。【発見】 T:より相手にスピーチが伝わるような話し方のポイントを見付けよう。初めにスピーチの動画を見ましょう。 *スピーチ名人のビデオを見る。 C:呼びかけるような言い方をして、みんなを引き付けている。 C:質問を投げかけて、みんなを引き付けている。 C:大事なところは強調してゆっくり大きな声で話している。</p> <p>3.グループで一人ずつスピーチメモをもとにスピーチをし、アドバイスをし合う。【対話】 T:スピーチメモを基にスピーチをします。聞き手はスピーチの説得力がより高まるように、視点にそってアドバイスをしましょう。(交流の流れ)</p> <p>展開 ①個人で自分のスピーチメモに工夫を書き加える。 ②グループでスピーチする。 ③アドバイスする。→書き加える。 ④アドバイスを生かして、もう一度スピーチする。 ④感想を伝える。(よくなったことを中心に) *繰り返し行う</p>	<p>○対話のモデルの共有 身近な教師が登場するスピーチのモデル動画を視聴することで、興味・関心をもたせるとともに、学級全体でスピーチの仕方を共有できるようにする。また、2つのモデル動画の比較から効果的なスピーチのポイントを見ださせていく。 ※共有化</p> <p>○交流の目的と視点の明確化 「自分のスピーチがより説得力があるものにするために」という目的で、アドバイスをする側は、「提案内容やその理由が前回と比べて、より分かりやすくなったか。」「説得力が高まるために、見つけたポイントを生かしていたか。」の2つの視点をもって聞く。※焦点化</p> <p>○話し合いの話し型の提示 話し合いの話し型「友達の考えのよいところを伝えよう」「考えをつけ足して広げよう」を示す。※視覚化</p> <p>☆スピーチメモに友達からアドバイスされたことを加筆・修正しながら、スピーチの内容がより明確になるようにしている。(構成メモ・観察・発言)</p>
<p>終末 4.本時の振り返りをする。 T:今日の授業で、良くなったことや、これから気をつけたいことについて振り返りましょう。</p>	<p>□児童の発言を価値付け、次時への意欲をもたせる。</p>

【板書計画】

かんがえをつけたしてひろげよう。
くもめるよね
くほどつかろう

いとうるのかんがえのいいところをつたえよう。
いっぺいね
わたしもしたな

話し手の視点	聞き手	対話	話し手の視点	聞き手
自分のスピーチがより伝わるようにするために工夫したことを想起させる。	自分のスピーチがより伝わるようにするために工夫したことを想起させる。	自分のスピーチがより伝わるようにするために工夫したことを想起させる。	自分のスピーチがより伝わるようにするために工夫したことを想起させる。	自分のスピーチがより伝わるようにするために工夫したことを想起させる。

説得力が高まるスピーチのポイント
・呼びかけるような言い方
・大事なところで間をあける。

「子ども未来科」で何をする

友達とアドバイスをしあい、説得力がより高まるスピーチにしよう。

【研究主題にせまる6つの手立てとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

話題設定の工夫

子供たち一人一人が、未来の学習に興味をもち、自分事として考えられるように、今困っていることを全体で確認し、よりよい未来をつくるために、どんなことを学べば良いかをみんなで考える。

話し合いの話し型の提示

「友達の考えの良いところを伝えよう」「考えをつけ足して広げよう」という視点を提示して、前向きな交流活動を促す。

「対話」のモデルの共有

スピーチのモデル動画を作成する。身近な教師が登場することで興味・関心をもたせるとともに、学級全体でスピーチの仕方を共有できるようにする。また、2つのモデル動画の比較から効果的なスピーチのポイントを見ださせていく。

(2) 「学び合う」ための手立て

意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

互いのスピーチについてアドバイスをし合う交流活動を設定する。その際は、日々の学級での学習状況や、人間関係などを考慮して3人組を編成する。そうすることによって、互いの良さや改善点等について、互いの考えを肯定的に捉えつつ、高め合うような交流を図っていく。

交流の目的と視点の明確化

アドバイスをし合う際には、「自分のスピーチやより説得力のあるものにするために」という目的で、「提案内容やその理由が前回と比べて、より分かりやすくなったか。」「説得力が高まるために、見つけたポイントを生かしていたか。」の2つの視点を提示する。